令和８年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策　【松江市立 城北小学校 】

(1)学力調査結果から見られた傾向

教科		分析(成果○，課題●)	改善策(・)
国語	成果	○無回答率が低く、課題に向かう意欲が高い。 ○文章だけでなく、選択肢の内容を理解したり、比較したりすることができている。	・引用は毎年必ず出題される。3年生以降での指導を各学年徹底する。 ・自分の考えと比べて主体的に読んだり、自分の考えを書いたりするような経験を積む。国語科はもとより、社会科、総合的な学習等、国語科以外の教科でも意識的に行う。
	課題	●複数の条件に合わせて答えるときに、条件に合った解答を出していない。また、引用の際の文章の書き方が理解できていない。 ●自分の考えを書くことが苦手な児童がいる。	
算数	成果	○基本的な計算力は比較的身についている。 ○無回答率の割合は低く、問題に取り組む姿勢は良好である。	・問われていることは何かを正しく理解するために、問題文の中の重要な言葉を丸で囲んだり、線を引きながら読んだりして必要な情報にチェックを入れる習慣をつける。 ・表やデータの読み取りなど、日常の生活の中で力をつけていく(データの活用)。
	課題	●読解力が低く、問われていることを正しく捉えられていない(特に、混み具合や表の読み取り)。 ●単位量あたりの大きさ、割合、複数の情報が入った表の見方ができていない。	

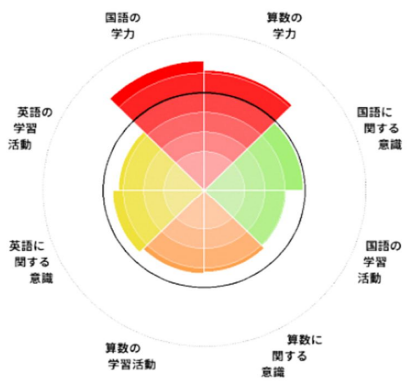
(2)質問紙調査から見られた傾向

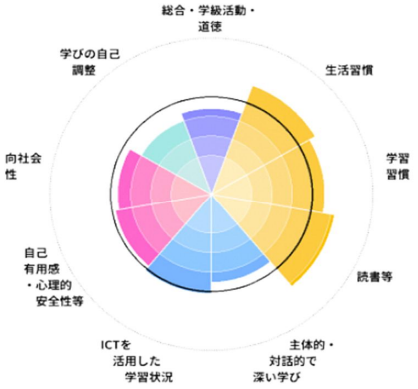
		分析(成果○:強み/伸ばしたい点，課題●:弱み)	改善策(・)
質問紙	成果	○教員が児童のよさを認めていることで、自尊感情を高めている児童の割合が高い。 ○ICT機器を使う技能が身についている。	・計画的に教育相談を実施することで、こどもたちの思いにじっくりと寄り添う時間を確保する。 ・ほくほくタイム(スリンプル・プログラム)の徹底。継続して取り組むことで、考えを表すことへの抵抗感をなくす。
	課題	●学習に真面目に取り組む一方、受け身になりがちな面もある。 ●自分の考えを表す項目にマイナスが多い。	

(3)その他、今後校内研究等学校全体で特に力を入れて取り組むこと

学校全体	基本的な生活習慣が身に付き、授業や家庭学習など、学習にまじめに向かっている児童の割合が高い。基本的な内容は身に着けている児童が多い反面、自分の意見をもっていても積極的に発言したり、行動したりするといった主体的な学びの姿勢が弱い。このことを踏まえ、児童が自分なりの意見をもつための手立てがある授業、安心して自分の意見を話し、友達と交流することで考えが深まる楽しさを味わえる授業のあり方を工夫していく。また、毎週、取り組んでいる「ほくほくタイム(スリンプル・プログラム)」も継続的に行っていく。

(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)





【受検者数】

85 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。

(5)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)

